ちょっと気になるあの人

彩色パレット

戸森しるこ
ひこ・田中
吉田桃子
魚住直子

絵
佳奈

多様性をみつめる
ショートストーリー

PALETTES OF YOUR COLORS

PALETTES OF YOUR COLORS

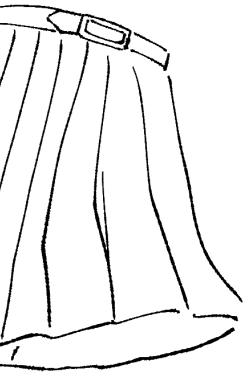
もくじ

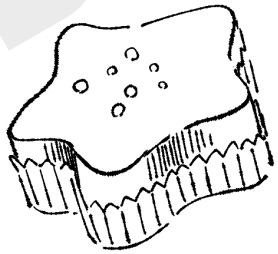
日傘のきみ　戸森しるこ　7

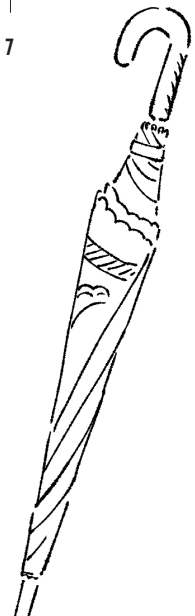
親がいる。　ひこ・田中　45

恋になった日　吉田桃子　81

Hello Blue!　魚住直子　119







DO NOT COPY

「おはよう。片寄」

おれは内心ほっとして、ほっとしたことに動揺しつっ　　」と答えた。

「今日もかっこいいな」

「……は？」

おれはタピ岡に聞き返した。聞きまちがいかと思ったから。

「夜明け前の海岸を、黒くてスマートな大型犬と一緒に歩く、　　部っ　　ス、片寄渚。絵になるっていうのかな」

タピ岡が意外としゃべるやつなのは知っていた。でも、おれのこ　　なふうに思っていたことは知らなかった。同時に、なぜかムッとした。

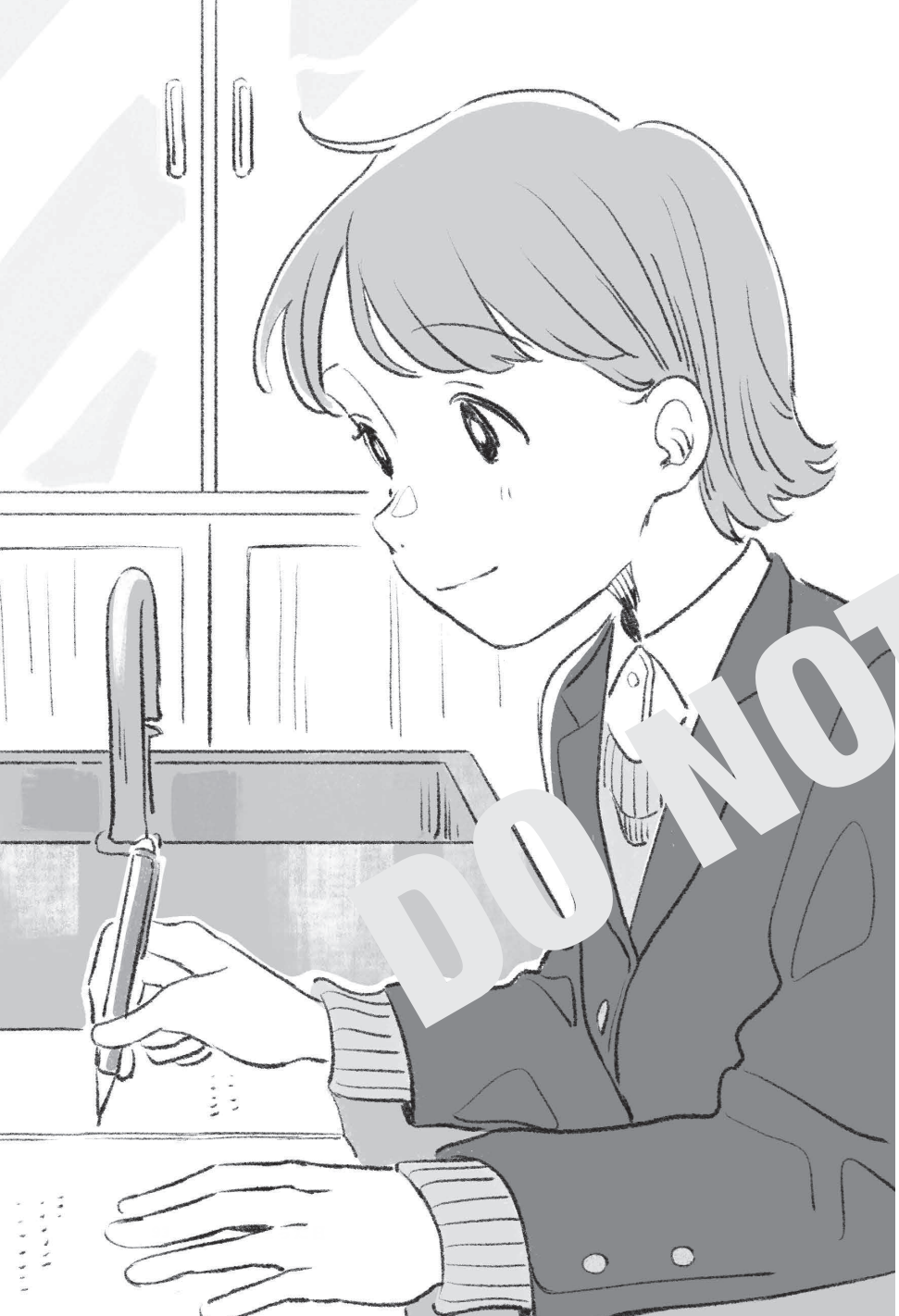
「エースなんかじゃない。もう引退したし。バカにしてんの？」

「どう聞いたって、ほめてるだろ」

タピ岡は苦笑しつつそう言ったあと、ものめずらしそうに小太郎を見た。

「なんていうの？」

DO NOT COPY



名前も顔も、性別だって知らないのに、わたしはそんな気持ちになっていた。そして、最後に書かれたメッセージを読んだとき……。

「星那―、いつまでふきんがけやってるの？　先に教室もどってるねー」

家庭科室の戸口で琴子たちが手をあげた。

「ごめん、これやったらすぐ行くから！」

辺りを見回[illegible]忘れていったシャープペンはすぐに見つかった。カチ、とノックを押すと芯が出た[illegible]にほっとして、わたしはノートに文字を書き始める。

……よし、できた。

わたしの声、届き[illegible]そう思いながらノートを閉じて元の場所へ戻す。

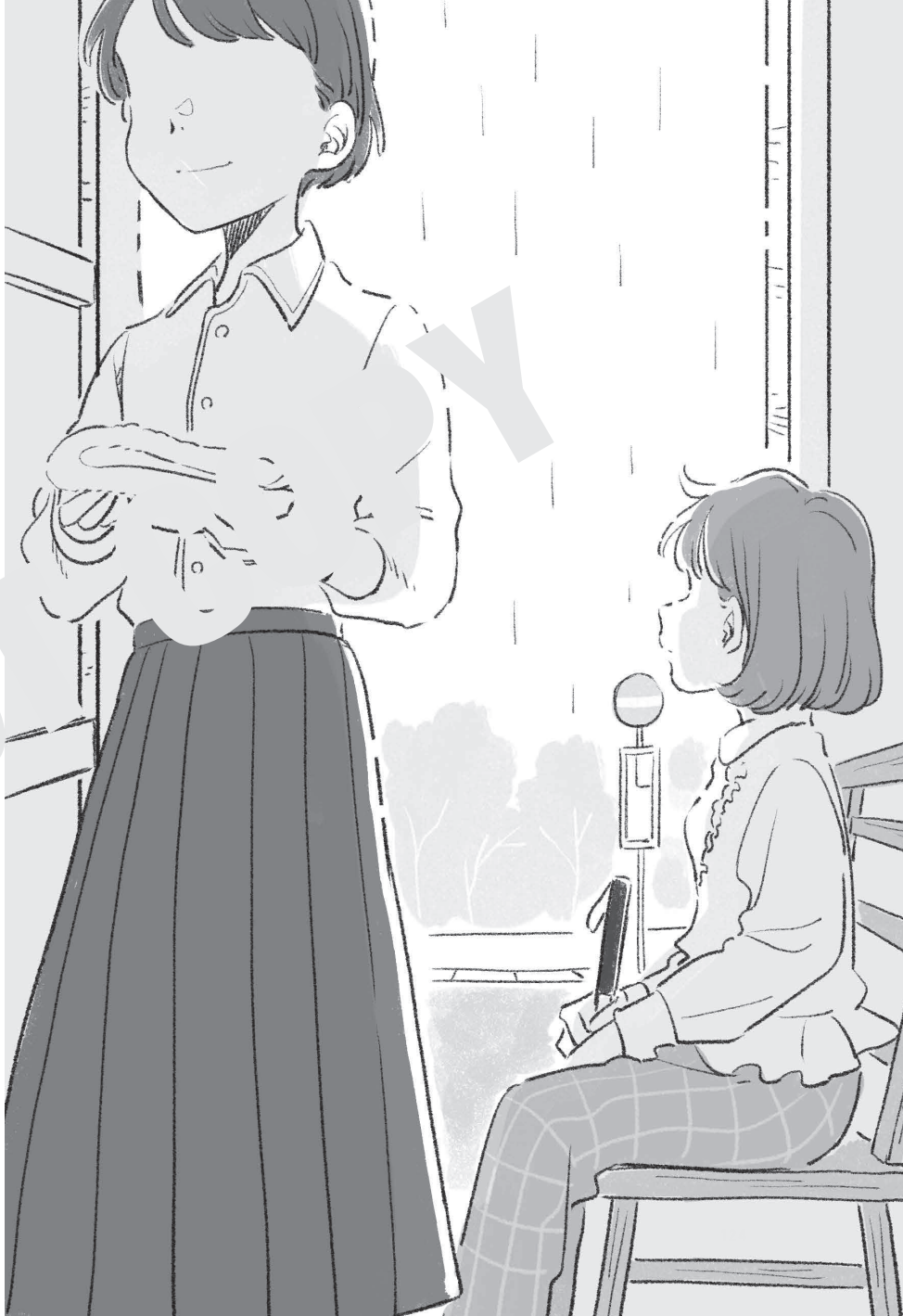
早足で廊下を移動しなが[illegible]やくなっていくのを感じた。

『同じ学校、同じ制服の中[illegible]いて、[illegible]トタムショーにモヤッとする。みんなと同じものが見えてないんじゃないかって』

そのメッセージにそっと矢印[illegible]わたしはこう書いた。

DO NOT COPY

てあるらしい、風が入ってくる。
洋品店の人ってどんな服を着ているんだろう、と花さ　　さっきつかまったほっそりとしたひじは、ぱりっとした生地にくるまれていた。
「あなたは今、どんな服を着ていますか」
「えっ」
お店の人はびっくりしたようだった。
「えっと、青いシャツに黒のロングスカートです」
「それは似合っていますか」
お店の人はおかしそうに笑いだした。
「どうかなあ。そうだったらいいなと思いますけど」
「じゃあ、私の服はどう思いますか。変じゃないですか」
たしか、水色のブラウスにチェックのパンツをはいているはずだ。
「かわいくてよく似合っています。それに上質な服ですね」



DO NOT COPY